



令和6年1月31日(水)発行

校長 栗原 友恵

北九州市小倉北区昭和町16番1号

HP: www.kita9.ed.jp/nakashima-e/

TEL: (093) 921-1690

<学校教育目標>

体・徳・知 調和のとれた心身ともに健康な子どもの育成

<目指す子ども像>

- 相手の立場に立って考える思いやりのある子ども
- すすんで学び、自ら考え、表現する子ども
- 元気に学び、すすんで運動に取り組む子ども

<目指す学校像>

- 安全な学校 ○温かい学校
- 笑顔があふれる学校
- 「中島小大好き」と言える学校
- 成長(学習)し続ける学校
- 保護者・地域・関係機関と連携する学校

全国学力・学習状況調査 特集号

今年度4月18日(火)に行われた小学6年生及び中学3年生を対象とする「全国学力・学習状況調査」につきまして、個人の結果は既にお知らせしています。今回は、その結果を基に、今後の学習についてどのように取り組んでいくかをまとめました。(中島小学校HPにも掲載しています。)

令和5年度全国学力・学習状況調査の結果の報告と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和5年4月18日(火)に、6年生を対象として、「教科(国語、算数)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施しました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思えます。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 教科に関する調査結果の概要

	学力調査の分析(傾向や特徴)
国語	<ul style="list-style-type: none"> ・全体的に、全国平均正答率を上回っている。 ・「話すこと・聞くこと」領域は、比較的正答率が高い。「書くこと」領域は、全国平均正答率を下回っている。 ・問題形式として、選択式は比較的正答率が高い。 ・全ての問題に対して無回答率は0%で、全国平均無回答率をすべて下回っている。
数学	<ul style="list-style-type: none"> ・全体的に、全国平均正答率を上回っている。 ・「データの活用」領域は、比較的正答率が高い。 ・問題形式として、選択式、短答式、記述式のどれも全国平均を上回っている。 ・全ての問題に対して無回答率は0%で、全国平均無回答率をすべて下回っている。

2. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要

・学校での学習に関する項目では、「総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか」に対し、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の割合は全国平均を上回っている。また、「学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいますか」に対しても、全国平均を上回っていた。

・家庭等での学習に関する項目では、「自分で計画を立てて勉強をしていますか」に対し、「よくしている」「ときどきしている」の割合は、全国平均を下回っていた。また、「土曜日や日曜日など、学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強しますか」に対し、1時間未満の割合が全国平均を上回っていた。家庭学習についての見直しが必要である。

・ICTの活用に関する項目では、「5年生までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか」に対し、「週3回以上」の割合が全国平均を下回っていた。

・学校の楽しさに関する項目では、「人と違う意見について考えるのは楽しい」に対し、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の割合は全国平均を上回っていた。しかし、「人が困っているときは、進んで助けていますか」に対し、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の割合は全国平均を下回っていた。

・自尊感情に関する項目では、「自分にはよいところがあると思う」の割合は、全国平均を下回っていた。学校生活の様々な場面で、自尊感情を高める手立てが必要である。

・生活習慣に関する項目では、「毎日同じくらいの時間に寝ている」の割合は、全国平均を下回っていた。

3. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

・国語については、特に「書くこと」領域に課題があった。自分の考えをまとめる活動を学習に取り入れ、書くことを充実させた授業づくりに取り組む。

・算数については、思考力を問われる問題に課題があった。「問題の解き方がわかるように書く」「言葉や数、式を使って、わけや求め方を書く」等、書く活動を充実させた授業づくりに取り組む。

・全教科においてICTの積極的な活用を図っていく。

② 家庭生活習慣等に関する取組

・各学年の学習内容を確認し、家庭学習の内容や量について全教職員で共通理解を図り、全校の取組としていく。日々の児童への指導はもちろん、家庭学習の定着においても、担任だけでなく全教職員でサポートしていく。

・自尊感情を高めたり仲間と協力したりする活動に全校で取り組む。

・児童や保護者を対象に実施している「学期末アンケート」(年間3回)を通して、児童の学びや生活の実態を的確に把握し、取組を進めていく。